SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

長崎県対馬市

2022年8月

SDGs未来都市計画名	対馬市SDGs未来都市計画
自治体ＳＤＧｓモデル事業 又は特に注力する先導的取組	

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度

1．全体計画（2030年のあるべき姿）

（１）計画タイトル

対馬市SDGs未来都市計画

（２）2030年のあるべき姿

2030年のあるべき姿は、第２次対馬市総合計画の「自立と循環の宝の島 対馬」にSDGsの視点を取り入れ、経済・社会・環境の政策統合によって４つの主要施策「ひとづくり」「なりわいづくり」「つながりづくり」「ふるさとづくり」の相乗効果を高める。特に、国内外で急成長するサーキュラーエコノミーを好機に、「循環」を強く意識した対馬の姿として、「人もヤマネコもウミガメも」安心して共生し、森・里・海が連環する「サーキュラーアイランド対馬」を描く。

（３）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	11 住み続けられるまちづくりを 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 13 気候変動に具体的な対策を

（４）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値		2021年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	持続可能な産業の推進－島外からのスタディツアー参加団体数【9.2】	2020年	0 団体	2021年	10 団体	2030年	30 団体	33%
2	海洋プラスチックごみリサイクル利用企業数【12.5】	2020年	1 社	2021年	3 社	2030年	30 社	6.9%
3	ESCO型民間エネルギー会社の設立（チップボイラによる熱エネルギーサービス事業）【7.2】	2020年	0 社	2021年	1 社	2030年	1 社	100%
4	地域運営組織設置数【11.3】	2020年	0 校区	2021年	0 校区	2030年	12 中学校区	0%
5	自動運転公共交通路線社会実装数【11.2】	2020年	0 路線	2021年	0 路線	2030年	2 路線	0%
6	学校教育ESD実施校数【4.7】	2020年	2 校	2021年	5 校	2030年	34 校（島内全小中高）	9.4%
7	対馬グローカル大学（仮称）修了者数【4.7】	2020年	0 名	2021年	77 名	2030年	100 名	77.0%
8	対馬SDGs実践塾修了者数【4.7】	2020年	0 名	2021年	0 名	2030年	300 名	0%
9	「対馬学」研究奨励数【4.7】	2020年	10 件	2021年	6 件/年	2030年	10 件程度/年	60%
10	対馬学フォーラムでのポスター発表本数【4.7】	2020年	50 本/年	2021年	0 本/年	2030年	70 本/年	0%
11	対馬SDGsクラブの若者・女性会員数【5.5】	2020年	0 名	2021年	0 名	2030年	100 名	0%

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度

1．全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
12	海ごみ回収量 【14.1】	2018年 8,000 ㎥	2021年 7,598 ㎥	2030年 10,000 ㎥	76.0%
13	海洋プラスチックごみリサイクル率（ペットボトル・硬質プラスチック類）【14.1】	2018年 37.4 %	2021年 10.25 %	2030年 80.0 %	12.8%
14	磯焼け食害魚の利活用率 【14.2】	2018年 5 %	2021年 100 %	2030年 100 %	100%
15	磯焼け（海藻類）再生率 【14.2】	2018年 - %	2021年 不明 %(2013年比)	2030年 2 %(2013年比)	不明
16	水産資源回復及び漁業所得維持のためのブルーツーリズム推進数（農林漁家民宿登録数のうち、漁家分）【14.7】	2018年 17 軒	2021年 20 軒	2030年 30 軒	23.1%
17	シカ推定生息頭数 【15.1】	2015年 39,200 頭	2021年 不明 頭	2030年 3,500 頭	不明
18	シカ・イノシシ加工品・生肉・皮販売額【15.1】	2018年 2,843 千円	2021年 2,837 千円/年	2030年 2,000 千円/年	141.9%
19	森林下層植生再生率 【15.1, 15.2, 15.4】	2018年 0 %	2021年 0 %	2030年 50 %	0.0%
20	森林管理によって発行したJ-クレジット販売量【15.a, 15.b】	2018年 15 tCO2/年	2021年 896 tCO2（販売・移転量累計）	2030年 2,107 tCO2（完売）	4.3%
21	ツシマウラボシシジミ（国内希少野生動植物種）が再導入され復元された生息地の数【15.5】	2018年 0 地区	2021年 3 地区	2030年 3 地区	100.0%
22	ツマアカスズメバチ（特定外来生物）駆除巣数【15.8】	2018年 358 個	2021年 64 個	2030年 0 個（根絶）	82.1%
23	気候非常事態宣言 【13.2】	2020年 未 宣言	2021年 （宣言準備作業中） 宣言	2030年 済 宣言	70%
24	気候変動適応計画策定および実行【13.2】	2020年 未 策定	2021年 （計画策定作業中） 策定	2030年 産業、自然生態系、インフラ、健康面において適応策を実施	30%
25	市内CO2排出削減率 【13.1】	2016年 291,000 tCO2/年	2021年 不明 %	2030年 -26 %（2016年度比）	不明
26	生ゴミ回収リサイクル参加世帯数 【13.1】	2020年 1,988 世帯	2021年 2,096 世帯	2030年 3,000 世帯	10.7%

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度

1．全体計画（2030年のあるべき姿）

（５）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

2020年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、SDGsスタディツアーやSDGs実践塾といった主要イベントを開催することができず、循環経済構築への協力企業の掘り起こしができませんでした。2021年度につきましても、度重なる行動制限を受け、SDGs実践塾の開催が中止になる等、影響が長引きました。

コロナ禍の中においても、対馬へのSDGsスタディツアーのニーズは高く、例えば2021年度は関西経済同友会環境・エネルギー委員会という循環経済社会構築のために活動している企業経営者有志のスタディツアーが対馬で行われました。ツアー直後に企業版ふるさと納税による寄附の申し出があり、SDGs未来都市計画に記載しておりますように、スタディツアーを通じた資金メカニズム構築の可能性を十分に感じることができました。同友会のスタディツアーは今年度も継続予定であり、併せて「対馬モデル」（循環経済モデル）の研究開発の連携申し出もあり、計画の実現に向けたパートナーシップ構築が進みつつあります。こうした島外団体と島内の市民・団体の交流と協働の場づくりが今後の課題であり、2022年度はその仕組みづくりに取り組む予定です。

KPIのNo.15,17,25につきまして、毎年度のモニタリング・推計ができておらず、不明とさせていただいております。今後の第２期計画の見直しにおいて、達成状況評価に適したKPIを検討し、設定してまいりたいと考えております。（例えば、シカの推定生息頭数を、シカの適正駆除頭数と実際の駆除頭数の割合に変更する等:R3年度…シカ駆除頭数11,321頭/シカ適正駆除頭12,000数頭*100）

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度

1．全体計画（自治体ＳＤＧｓの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

（１）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年 実績	2021年 実績	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 （%）
1	SDGs推進基盤づくり	①地域運営組織設置数	2020年 0 校区	2020年 0 校区	2021年 0 校区		2022年 6 校区	0%
2		②学校教育ESD実施校数	2020年 3 校	2020年 3 校	2021年 5 校		2022年 10 校	29%
3		③対馬グローカル大学（仮称）修了者数	2020年 0 名	2020年 28 名	2021年 77 名		2022年 50 名	154%
4		④対馬SDGs実践塾修了者数	2020年 0 名	2020年 0 名	2021年 0 名		2022年 100 名	0%
5		⑤「対馬学」研究奨励数	2020年 0 件	2020年 0 件	2021年 6 件		2022年 30 件	20%
6		⑥対馬学フォーラムでのポスター発表本数	2020年 50 本	2020年 0 本	2021年 0 本		2022年 300 本	0%
7		⑦対馬SDGsクラブの若者・女性会員数	2020年 0 名	2020年 0 名	2021年 0 名		2022年 60 名	0%
8	「海」を核としたサーキュラーエコノミーの活性化	①島外からのスタディツアー参加団体数	2020年 0 団体	2020年 0 団体	2021年 10 団体		2022年 10 団体	100%
9		②海洋プラスチックごみリサイクル利用企業数	2020年 1 社	2020年 2 社	2021年 3 社		2022年 10 社	22%
10		③海ごみ回収量	2018年 8,000 ㎥	2020年 6,955 ㎥	2021年 7598 ㎥		2022年 10,000 ㎥	76%
11		④海洋プラスチックごみリサイクル率（ペットボトル・硬質プラスチック類）	2018年 37.4 %	2020年 0.85 %	2021年 10.25 %		2022年 60 %	17.1%
12		⑤磯焼け食害魚の利活用率	2018年 5 %	2020年 100 %	2021年 100 %		2022年 100 %	100%
13		⑥水産資源回復及び漁業所得維持のためのブルーツーリズム推進数（農林漁家民宿登録数のうち、漁家分）	2018年 17 軒	2020年 1 軒/年	2021年 2 軒/年		2022年 1 軒/年	200%

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度

１．全体計画（自治体ＳＤＧｓの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2020年 実績	2021年 実績	2022年 実績	2022年 目標値	達成度 (%)
14	「森」「里」を核としたサーキュラーエコノミーの活性化	①ESCO型民間エネルギー会社の設立	2020年 0 社	2020年 1 社	2021年 1 社		2022年 1 社	100%
15		②シカ推定生息頭数	2015年 39,200 頭	2020年 41,700 頭	2021年 不明 頭		2022年 11,490 頭	不明
16		③シカ・イノシシ加工品・生肉・皮販売額	2018年 2,843 千円	2020年 2,817 千円/年	2021年 2837 千円/年		2022年 3,500 千円/年	81%
17		④森林管理によって発行したJ-クレジット販売量	2018年 15 tCO2/年	2020年 871 tCO2（無償・有償譲渡計）	2021年 896 tCO2（無償・有償譲渡計）		2022年 2,107 tCO2（完売）	4%
18		⑤ツシマウラボシシジミ（国内希少野生動植物種）が再導入され復元された生息地の数	2018年 0 地区	2020年 2 地区	2021年 3 地区		2022年 1 地区	300%
19		⑥生ゴミ回収リサイクル参加世帯数	2020年 1,988 世帯	2020年 73 世帯/年（新規参加世帯）	2021年 35 世帯/年（新規参加世帯）		2022年 150 世帯/年（新規参加世帯）	23%
20	緊急的な気候変動対策による安心安全な島づくり	①気候非常事態宣言・気候変動適応計画策定	2020年 未 宣言・策定	2020年 （宣言・策定作業中） 宣言・策定・実行	2021年 （宣言・策定作業中） 宣言・策定・実行		2022年 宣言・策定・実行済	50%

（２）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2021年度は、SDGs推進本部、SDGsアドバイザリーボード、SDGs市民ワークショップなどを通じ、各主体の自主的自発的なSDGsアクションを促すための「対馬市SDGsアクションプラン」づくりに取り組み、2022年6月30日付けでアクションプランを策定しました。
このプランに基づき、各主体の対話を促すための「SDGsカフェ」、各主体の自主的・自発的な行動を後押しするための「対馬SDGsパートナーズ登録制度」、各主体の交流・相互啓発・協働を促すための「対馬SDGsプラットフォーム」の構築に取りかかっています。
このように、各主体が自主的・主体的に行動する仕組み・仕掛けづくりを優先的に行い、同アクションプランで掲げた７つの重点アクション（地域共生社会、地産地消、持続可能な農林水産業、サステイナブル・ツーリズム、ゼロ・ウェイスト、気候変動対策、域学連携）の実行加速化を図る予定です。
これらの重点アクションは、島民がいつまでも安心安全に暮らせるよう、環境・社会・経済の三側面を統合し、同時解決性の高い施策群であり、これらの横断的な施策展開を通じて、自律的好循環を高めたいと考えております。
」

（３）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

SDGs未来都市計画のグレードアップ版とも言える「対馬市SDGsアクションプラン」の策定を通じ、対馬市の持続可能性を高める施策のあり方や実現のための仕組みづくり、ロードマップの見直しと強化に取り組みました。プラン策定過程において、特に自治体SDGs推進のための仕組みづくり（SDGsクラブ等）の進捗が芳しくなく、環境・社会・経済の関連施策の効果的な展開ができていないことが感じられました。また、SDGsアドバイザリーボードでは、既存の政策体系をSDGsの視点で見直し、同プランと整合させることの必要性が指摘されました。
当市のほとんどの施策がSDGsに紐付くものであり、SDGsの視点を加えた施策の質的向上と横断的連携による施策効果の向上のためには、再度見直しと施策間連携のための内部協議を行い、その上で、市民や関係団体との連携を図ることが課題と感じられました。
そこで当市では2022年度中に各部局から「SDGs推進員」を選任し、研修などを通じた横断的連携の強化を図り、なおかつ、SDGsカフェ、SDGsパートナー制度、SDGsプラットフォームといった庁外連携を促す仕組みを構築することで、環境・社会・経済施策の統合と同時解決性を高め、自律的好循環の加速化を強めたいと考えております。
地域におけるSDGsの推進基盤づくりとして、「地域運営組織設置」を掲げておりますが、2021年度は他自治体の事例調査に留まりました。
次年度、市民協働所管課の組織目標として本格的な制度づくりを行う予定です。また、地域等関係団体、行政等をつなぎSDGsの推進に資する「SDGs推進コーディネーター」につきましては、公募したものの、採用に至らず、次年度当初の任用に向け再募集を行う予定です。

（４）有識者からの取組に対する評価

・関西経済同友会と連携したスタディツアーの経験を踏まえ、今後、「対馬モデル」(循環経済モデル)に関する研究開発を通じたパートナーシップの構築は優良な事例として今後の更なる発展を期待する。
・島外団体と島内の団体・市民との交流、協働については、一層の取組強化が図られることを期待する。
・「対馬ＳＤＧｓパートナーズ登録制度」に基づく、登録企業の数や活動状況などを表すKPIを考案し、計画の中で位置付けることも一案であると思料する。
・「ＳＤＧｓクラブ」の活動実態について、解説を加えたうえで、その進捗が芳しくないとした原因を分析する必要があると思料する。KPIの設定に馴染むのであれば、計画の中で位置付けることも一案であると思料する。
・資金メカニズムがどの程度うまくいくか、指標にとどまらない進捗を期待する。